

## センスはどのようにして磨けるのか？

～ 知識が増える仕組みと活用技術を身に付ける ～

クリエイティブディレクターの水野学氏は、「センスとは知識の集積」であり、知識をしっかり蓄えることは物事を最適化する能力につながると言います。では、その知識はどのようにして蓄えたらよいのでしょうか？水野氏は、①聞く力を身に付ける、②得意分野を持つ、③感受性と好奇心を磨くことを勧めています。

### ① 聴く力を身に付けよう

知識とは不思議なもので、集めれば集めるほど、いい情報が速く集まってくるようになります。知らないことがあるとき、上司なり同僚なり部下なりの知識を吸収しようとする人は、知ろうという姿勢が習慣としてあるので、ますます知識が増えていきます。逆に知らないことがあるときそのままにする人は、どこまでいってもそのままです。さらに、相手の知識を得ようとするとき、人はおのずと聞き役に回ることとなりますが、これにもはかり知れないメリットがあります。「聞く」というコミュニケーションが上手になるためです。コミュニケーションというと、いかに伝えるか、いかに自己表現するかに意識を向ける人が多いようですが、その神髄は話すことだけではありません。コミュニケーションにおいて話すことと同様に、もしくはそれ以上に大切なことは聞くことです。

### ② 得意分野を持ってセンスを活用する技術を身に付けよう

幅広く知識を蓄えることは大切ですが、たとえ狭い分野でも深い知識を持つこともセンスを磨くチャンスとなります。「鉄道にものすごく詳しい」「海の生物なら何でも知っている」という人は、すべての事柄を自分の得意分野と結びつけることが可能です。このように、センスを磨くためにはセンスを活用する技術を持つことも大切です。得意分野の知識とセンスを絶えず他の分野にも適応してみる技術が、センスの向上につながるのです。

### ③ 感受性と好奇心を磨こう

知識の集積に懸命になりすぎると、人は時として自由な発想を失ってしまいます。センスを磨くには知識が必要ですが、知識を吸収し自分のものとしていくには、感受性と好奇心が必要なのです。テスト前の一夜漬けの勉強で得た知識はあっという間に忘れてしまいます。感じる力がそこになれば知識はなかなか蓄積されないため、そうなるのです。大人になったら「感受性+知識=知的な好奇心」という公式を持つべきでしょう。大人になれば知識は努力で身に付きますが、幼い子どもの感受性を保てば努力せずとも知識が自然と入ってくるとも言えます。物事をすべて決めつけてとらえずに、純真な驚きや発見を大切にすることが求められます。